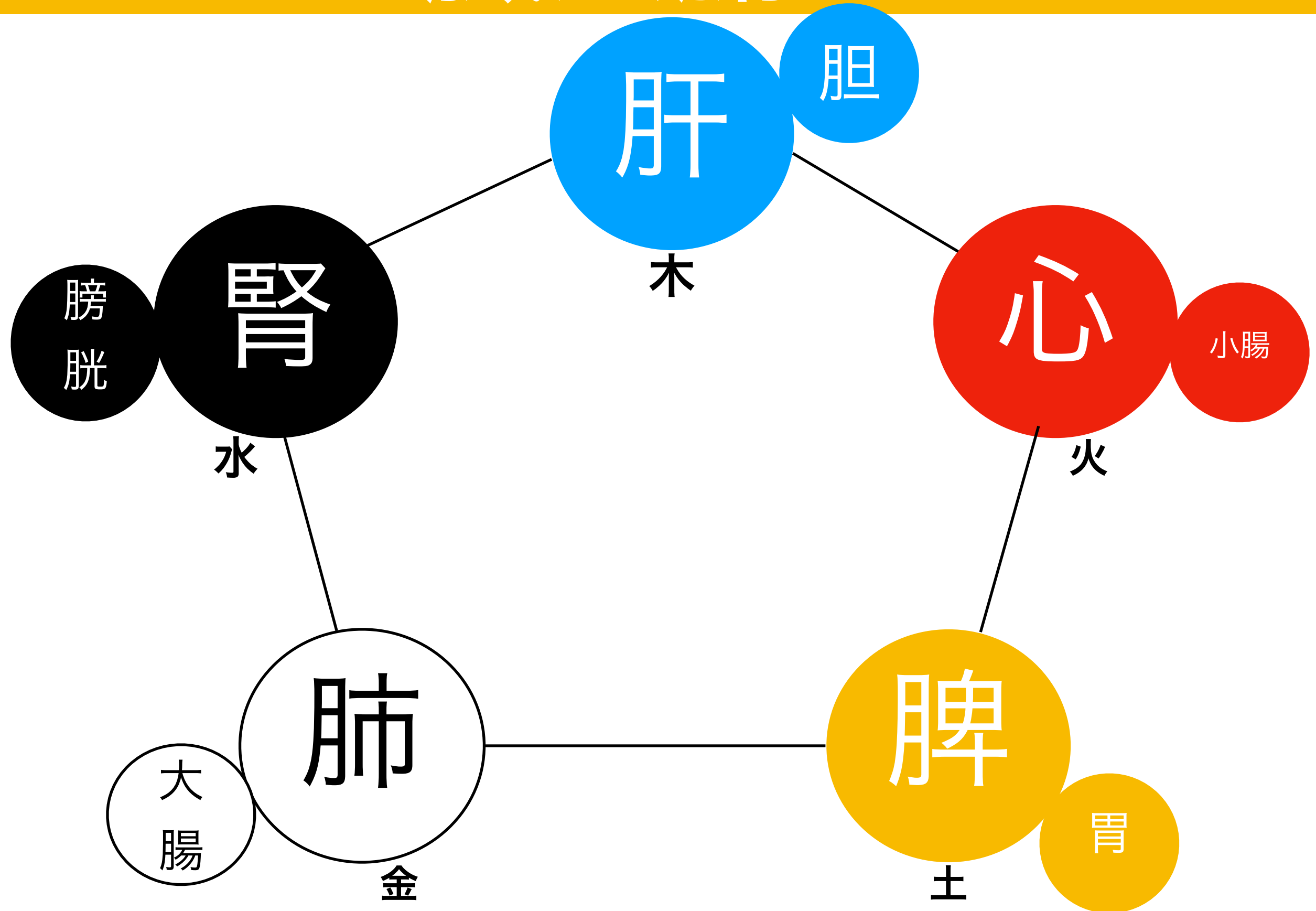


五臓六腑②

蔵と蔵の関係



五臓六腑とは



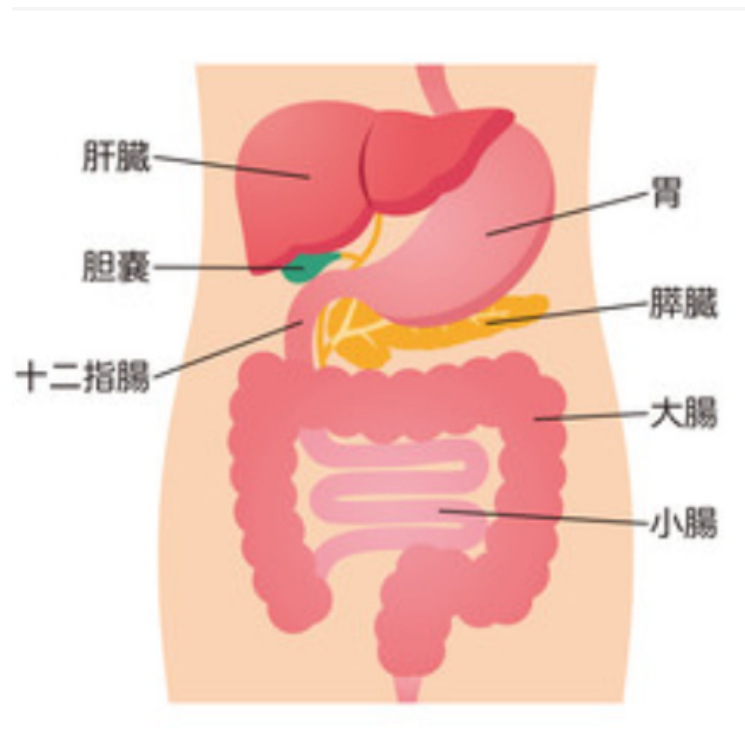
六腑とは

五臓	心	肺	脾	肝	腎	心包
六腑	小腸	大腸	胃	胆	膀胱	三焦

臓腑	陰陽の表裏の関係	機能性	相互連絡
臓	陰性で、裏に位置する	生理活動の主体をなす	表裏関係にある臓器は、相互に自身の経絡を、表裏関係にある臓器に連絡する
腑	陽性で、表に位置する	臓の従属として働く	

六腑の役割

六腑は飲食物・水液などの通り道であり、飲食物は六腑を通過する過程で腐熟・消化され糟粕は伝化され大便として排泄される。従って五臓が気血や精を満たしているのに対し、六腑は水穀で充実しているが、気血を満たす事はない「実して満たすことあたわず」と言われ水穀を通降させていく働きを持っている。



胆 たん

肝

胆

- 1.胆汁の貯蔵と排泄
- 2.決断を主る
- 3.奇恒の腑に属する



肝

疏泄作用

肝の余気 →

胆

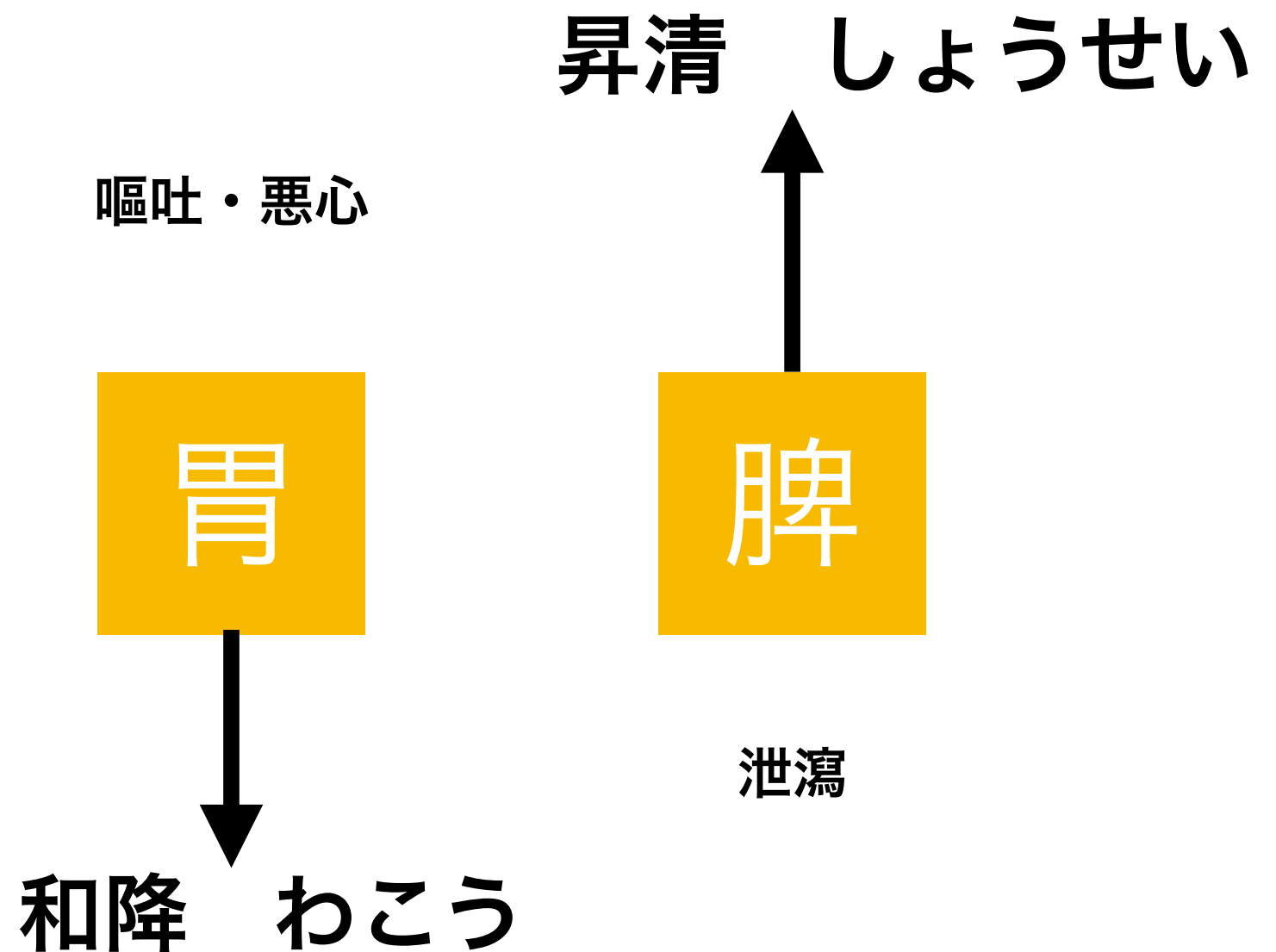
胆汁排泄 → 小腸

胃 い

脾

胃

水穀の受納・腐熟を主る
通降を主る、降をもって和となす



小腸 しょうちよう

心

小
腸

受盛の官、化物の出るところ
清濁の泌別を主る



心火の亢進

経絡で熱が移行



小腸実熱

口内炎・不眠
動悸・胸中の煩躁

頻尿で色が赤い
排尿時に灼熱感

大腸 だいちょう

肺

大腸

糟粕の伝化を主る
(伝化とは伝導変化作用の事)

肺

経絡で相互連絡

大腸

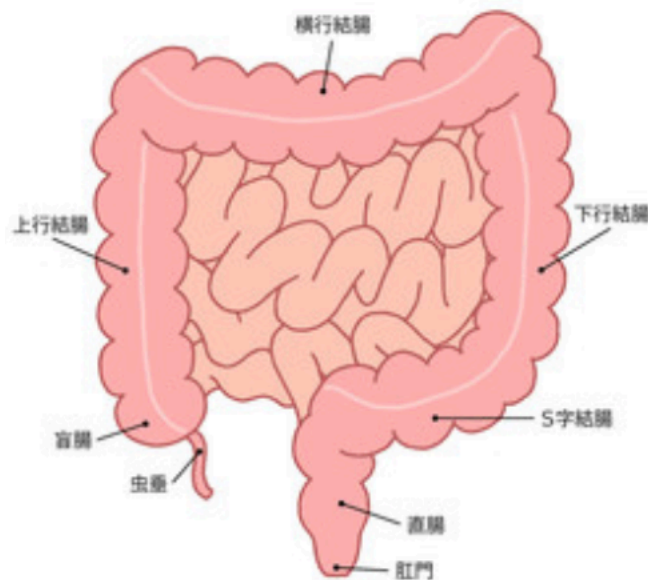
肃降
しゅくこう

相互に作用を促進

伝導
でんどう

呼吸

排便



膀胱 ぼうこう

腎

膀胱

貯尿と排尿

膀胱の開閉や排尿量の調節は、
腎が主る固摂・気化作用で統轄される

体内

再吸収

腎

調節

固摂作用

こせつさよう

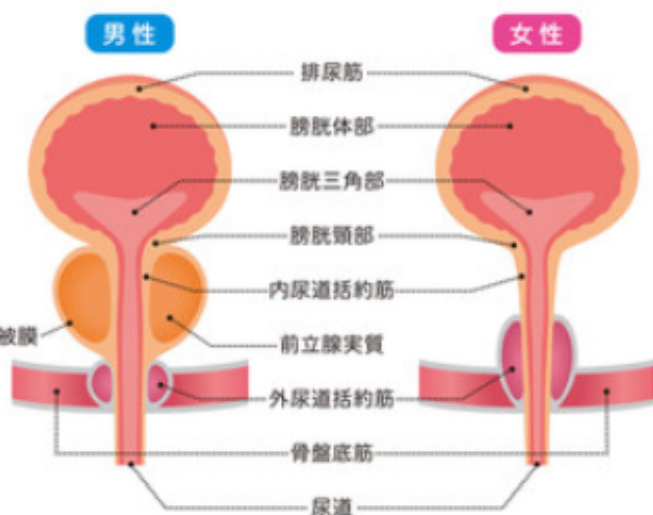
気化

尿液

膀胱

排泄

尿



三焦さんしょう



①諸気を主宰し、全身の気機と気化作用を統轄する。水液運行の通路である。

②上・中・下三焦の区分と各部の機能特性

	気		血		津液	
上焦	肺	宗気生成	心	循環	肺	発散・下降 (輸送)
中焦	脾	営気生成	脾	生成、運搬 (運化)		
下焦	腎	衛気生成・元気 生成	肝	貯蔵	腎	排泄・再吸収

奇恒の腑 きここのふ

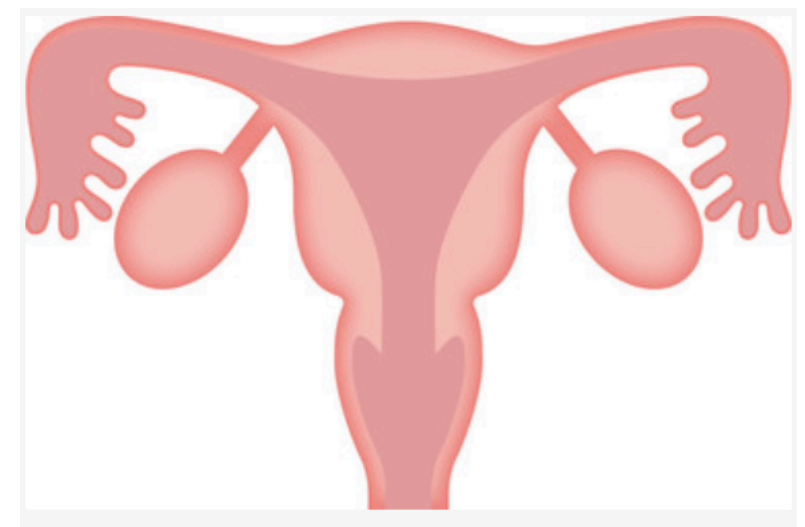
『奇恒』というのは、平常と異なるという意味である

奇恒の腑である脳・髓・骨・脈・胆・女子胞の生理機能は五臓に似ていて、陰精を貯蔵し

生体の成長活動の源となっている。 飲食を伝化する作用はない



脳 精神思惟を主る

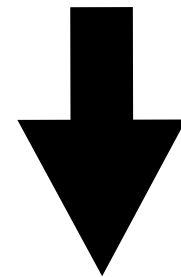


女子胞 月経を主る
妊娠を主る

胃痛の薬膳処方

胃痛の原因・・・食生活の乱れ、ストレス、疲労、薬の副作用等

『不通則痛』（ふつうそくつう）



基本弁証：理気と胃止痛

- ①気滞（ため息・げっぷ・ガス）・・・そば、大根、柑橘類、らっきょう
- ②胃の熱（咽が乾く・便秘）・・・きゅうり、トマト、バナナ、豆腐
- ③胃の冷え（温めるとよくなる）・・・もち米、生姜、にら、鰯、鮭
- ④瘀血（刺すような痛み）・・・チンゲンサイ、にら、玉ねぎ、酢

ドライマンゴーと豆腐の デザート

(材料と作り方)

- 絹豆腐をすり鉢でするか、フープロにかける。
- 角切りしたドライマンゴーを豆腐に混ぜて一晩置く。
- ココナツを混ぜ、飾りのココナツとミントを添える。

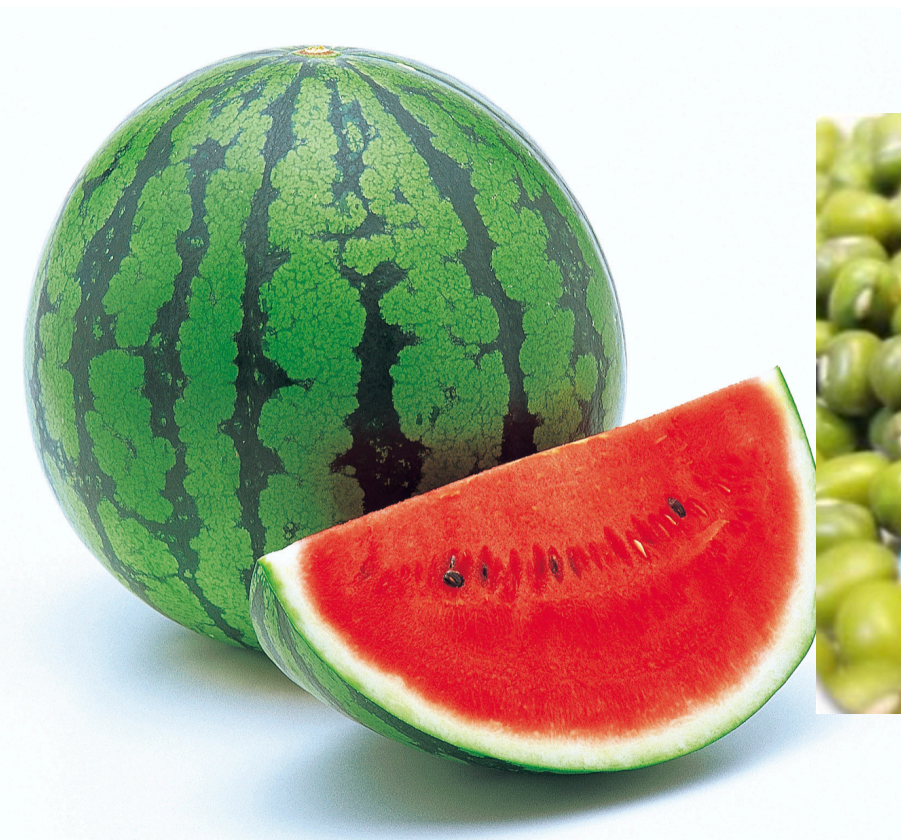


祛暑薬 きよしよやく

暑邪を除き暑病を改善する薬物を祛暑薬という

暑邪は六淫 るくいん のひとつで夏季に発生する病変を暑病と称する

祛暑薬は芳香化濁・清熱・和裏・利湿などの効能を持っている



香薷

こうじゅ



シソ科のナギナタコウジ

性味 辛・微温

帰経 肺・脾・胃

① 発汗解表
和胃化湿

夏季に納涼したり冷たい物をのんで寒邪を外感すると同時に湿邪が脾胃を損傷した陰暑で、悪寒・発熱・頭重・無汗・胸苦しい・腹痛嘔吐下痢などを呈した時に厚朴・白扁豆と用いる

② 利水消腫

頭面部の浮腫・悪寒・無汗・尿量減少などの症候に、単味あるいは健脾利水の白朮と使用する

藿香

かっこう



シソ科のパチヨリ

性味 辛・微温

帰経 肺・脾・胃

① 発表解暑

夏季に納涼したり冷たい物をのんで寒邪を外感すると同時に湿邪が脾胃を損傷した陰暑で、悪寒・発熱・頭重・無汗・胸苦しい・腹痛嘔吐下痢などを呈した時に紫蘇・半夏・厚朴・大腹皮と用いる 藿香正気散

② 化湿止嘔

寒湿内阻による心窩部の痞え・悪心・嘔吐・吃逆などの胃気上逆の症候に用いる

③ 行気止痛

脾胃気滯による満腹・腹痛に、厚朴・

白扁豆

はくへんず



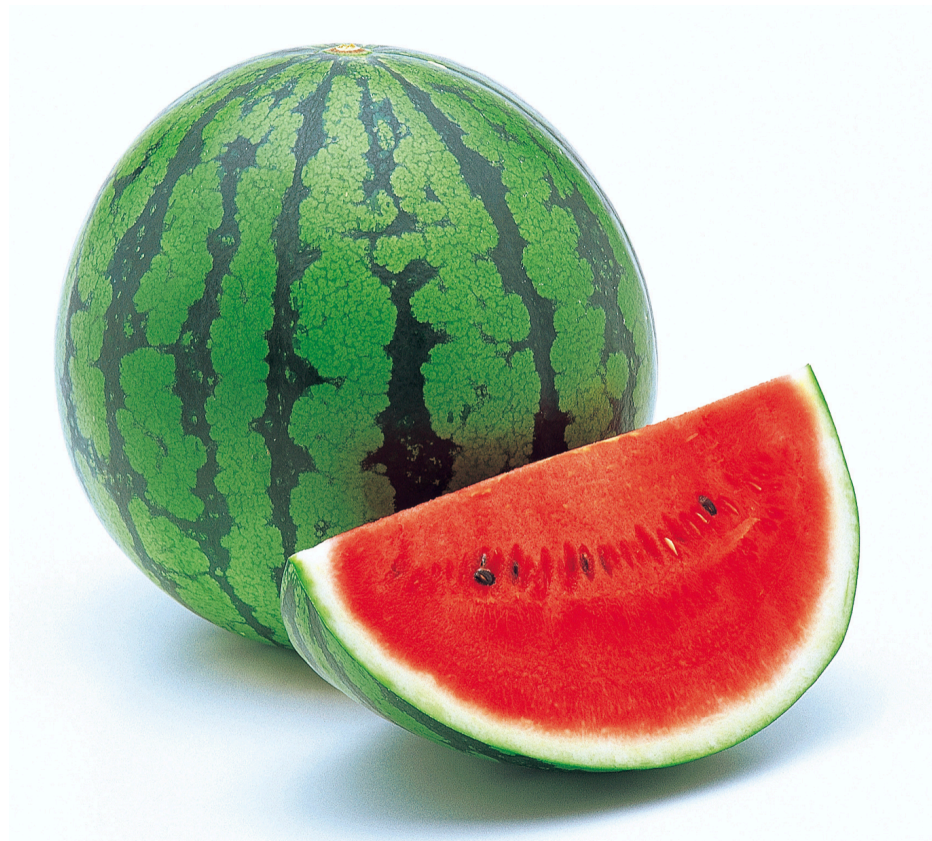
マメ科のフジマメ

性味 甘・微温

帰経 脾・胃

- ① 消暑化湿 暑邪挟湿による嘔吐・腹満・下痢に単味を煎服するか、
香薷・藿香・ 厚朴などと用いる 香薷飲
- ② 健脾化湿 脾虚湿濁による泥状～水様便・食欲不振・白色帯下などの症候に、
白朮・山薬・蓮子などを使用する 参苓白朮散
- ③ 解毒和中 酒・魚介類・フグ等の中毒による嘔吐・下痢・腹痛に、単味の粉末
あるいは煎汁を服用する

西瓜 すいか



ウリ科のスイカ

性味 甘・淡・寒

帰経 心・胃・肺・腎

- ① 解暑除煩・止渴利小便 中暑・暑温の煩渴あるいは温熱病の熱盛傷津による
焦躁感・尿量減少あるいは二日酔いなどに単味で用いる

散寒薬 さんかんやく

暑邪を除き暑病を改善する薬物を祛暑薬という

暑邪は六淫 るくいん のひとつで夏季に発生する病変を暑病と称する

祛暑薬は芳香化濁・清熱・和裏・利湿などの効能を持っている



附子 ぶし



キンポウゲ科のカラトリカブト

性味 大辛、大熱 有毒

帰経 十二経絡

走きて守らず

- ① 回陽救逆 陽気衰微の大量の発汗四肢の冷えに 人参と用いる
四逆湯・人附湯
- ② 補陽益火 腎陽虚の腰や膝がだるく無力・四肢の冷え頻尿などの症状に
肉桂・熟地黄・枸杞子・山茱萸などと用いる
八味地黄丸、牛車腎気丸
- ③ 温陽利水 腎陽虚による肢体の浮腫（腰以下に顕著）腰痛・腰が重だるい尿量が
少ないなどの症状に白朮・茯苓・牛膝・車前子などと用いる
真武湯・牛車腎気丸
- ④ 散寒止痛 風寒湿痺の関節の疼痛・しびれ感・冷えなどには、桂枝・白朮・炙甘草
などに用いる 麻黄附子細辛湯

肉桂 につけい



クスノキ科のケイの幹皮

性味 辛、甘、大熱

帰経 肝・腎・心・脾・胃

- ① 温中補陽 腎陽虚の四肢の冷え、寒がる、腰や膝がだるく無力に
桂附八味丸・右帰丸
- ② 散寒止痛 虚寒の胃痛・腹痛などに附子・乾姜・呉茱萸などと用いる
安中散
- ③ 温通経脈 経寒血滞の無月経・月経痛・下腹部の冷え痛み・腹腔内腫瘍などに
川芎・当帰・紅花・桃仁などと用いる
- ④ その他 補気・補血の方剤に少量を配合して陽気を温化し、気血双補の効果を
強める 十全大補湯・人參養栄湯

乾姜 かんきょう



ショウガ科の生姜の根茎を
乾燥したもの

性味 大辛、大熱

帰経 心・肺・脾・胃

- ①温中散寒 脾胃虚寒の腹が冷えて痛む・腹鳴・不消化下痢・嘔吐などの症候に人参・白朮・炙甘草などと用いる 人参湯（理中湯）
- ②回陽通脈 陽気衰微・陰寒内盛による亡陽虚脱で、四肢の冷え・脈が微弱などのショック状態を呈するときは附子等と使用する 四逆湯
- ③温肺化飲 肺の寒飲による咳嗽・呼吸困難・希薄な大量の痰背部の冷感などの症候に半夏・細辛・五味子など使用する 苓甘姜味辛夏仁湯・小青龍湯

呉茱萸

ごしゅゆ



ミカン科のホンゴシュユの

未成熟な果実

性味 辛・苦、熱。小毒

帰経 肝・腎・脾・胃

- ①暖肝・散寒止痛 肝胃虚寒による厥陰頭痛（頭頂～側頭部通）・悪心・嘔吐
肝寒犯胃の上部痛・悪心・嘔吐などの症候に人参・生姜・大棗などと用いる
呉茱萸湯
下焦虚寒の月経痛・月経周期の延長などとの症候には、当帰・川芎・桂枝
など使用する 温経湯・艾附温宮丸
- ②下気止嘔 胃寒の嘔吐・腹痛・よだれやつばが多いなどの症候には人参・生姜・大棗
などと用いる 呉茱萸湯
- ③その他 温中助陽に働くので、脾腎陽虚の五更瀉（夜明け前の下痢）に肉豆蔻・五味子・
補骨脂などと用いる 四神丸

艾葉 がいいよう



キク科のヨモギ属の全草

性味 苦・辛・温

帰経 肝・脾・腎

- ①散寒除湿・止痛 下焦虚寒による下腹部の冷え痛み・月経不順・月経痛・不妊などの症候
香附子・当帰・呉茱萸・肉桂などと用いる
艾附暖宮丸
- ②温経止血 虚寒による不正性器出血・月経過多・切迫流産の性器出血などに、阿膠
・当帰・川芎・白芍などと用いる
芎帰膠艾湯
- ③その他 お灸の材料になる 安胎作用がある 下焦を温める よもぎ蒸しなど

瀉下薬 しやげやく

下痢させたり、腸を潤滑にして大便を排泄させる薬物を瀉下薬という

瀉下薬は効能の違いにより①**攻下薬・潤下薬・逐水薬**に分類される

①裏実に伴証を伴う時は、まず解表した後攻裏する（先表後裏）

又は表裏双解を行い、表邪が内陷するのを防止する

裏実に伴証を伴う時は補養薬を配合して攻補兼施する

②作用が猛烈な攻下薬や毒性を持つ薬物は正気を損傷しやすいので
久病体弱・老人・虚弱者・妊娠中・産後・月経期などには慎重を要する

攻下薬 こうげやく

攻下薬の多くは薬力が猛烈で、強い瀉下作用を持つ。薬性が苦寒のものが多く通弁するだけではなく瀉火にも働く。実熱を清除する為便秘の有無に関わらず使用する事がある。「上病治下」「釜底抽薪」

この他「六腑は通をもって用となす」「通じれば則痛まず」の理論から急性腹症にも使用することもある



大黃 だいおう



タデ科のダイオウ属の根茎や根

性味 苦・寒

帰経 脾・胃・大腸・肝・心包

別名 将軍

- ①瀉熱通陽 胃腸の実熱積滞りによる便秘・腹痛・高熱・意識障害・うわごとなどの症候に芒硝・枳実・厚朴などと用いる 大承気湯・小承気湯

- ②清熱瀉火
涼血解毒 火熱上亢による目の充血・咽喉の腫痛・歯痛など上部の火熱の症候に、黄芩・黄連・山梔子などと用いる 三黄瀉心湯

- ③行瘀破積 血瘀による無月経や産後瘀阻の腹痛に桃仁・紅花・乳香・没薬などと使用する
治打撲一方・通導散

- ④清化湿熱 水熱の黄疸に、茵陳・山梔子などと用いる 茵陳蒿湯

芒硝 ぼうしゅう



天然の MgSO_4

性味 鹹・苦・寒

帰経 胃・大腸・三焦

①瀉熱通便・潤燥軟堅

胃腸実熱による腹満・腹痛・便秘・高熱・
うわごとなどの症候に
大黄・枳実・厚朴などと用いる 大承気湯

②清熱消腫

咽喉のびらん・腫脹や口腔内に竜腦などと
外用する

番瀉葉 ばんしやよう



マメ科のチンネベリーセンナ

性味 甘・苦・寒

帰経 大腸

- ①瀉熱通便 熱結便秘に、単味であるいは枳実、厚朴などと用いる
食積の腹満・腹痛・便秘に橘皮・黄連・萊菔子などと使用する
習慣性便秘・老人の便秘・虚弱者の便秘にも応用しても良い
- ②行水消脹 腹水に単味であるいは？牽牛子・大腹皮などと用いる

芦荟 るかい

ユリ科アロエの葉

性味 甘・苦・寒

帰経 大腸



- ①瀉熱通便 熱結便秘に頭のふらつき・目の充血・煩躁・不眠などを伴う時に使う
- ②涼肝除煩 肝胆実火の頭痛・めまい・耳鳴りいらいら・怒りっぽいなどの症候に便秘を伴うときに竜胆草・黄芩・山梔子などと使用する
- ③殺虫療疳 虫積の腹痛に用いる

ご清聴ありがとうございました

ございました

次回研究会日程

8月3日（月）

8月4日（火）